阪神西部（武庫川流域圏）地域総合治水推進協議会の開催概要

『阪神西部（武庫川流域圏）地域総合治水推進計画［平成２５年３月］』策定後、計画に位置づけた河川下水道対策や雨水を貯留・浸透させる流域対策、被害を軽減させる減災対策について、県・市及び住民が相互に連携を図りながら取り組んでいる。本計画の進捗状況については阪神西部（武庫川流域圏）地域総合治水推進協議会（以下「協議会」という。）へ適宜報告することにしており、平成 28 年２月に第５回協議会・ワーキングを開催した。

１　開催日時

平成２８年２月１２日（金）１５：００～１７:００

２　開催場所

尼崎市リサーチ・インキュベーションセンター
1F 多目的ホール

３　会議結果

１）主な会議内容

① 阪神西部地域における県・市・住民の取組状況について

・河川下水道対策：武庫川をはじめとする河川整備状況、下水道雨水幹線整備状況
・流域対策：校庭貯留整備状況、雨水貯留タンク助成状況、人工林の間伐状況　など
・減災対策：出前講座実施状況、手づくりハザードマップ作成状況、防災訓練状況　など

② 指定施設及び指定候補施設について

・雨水貯留浸透施設を指定施設の報告及び指定候補施設の報告

③ 減災対策の取組について

・流域圏市のうち、神戸市、芦屋市、伊丹市、篠山市から取組事例を紹介

２）委員の主な意見

・防災に対する危険意識の低さを感じている。防災の知識は拡がっているが、実際の行動はなかなか起こせない。ハザードマップを活用し住民意識の高揚を図っていきたい。
・屋外拡声器は整備されているが、家の中では聞こえない場合がある。携帯を持っていない方も居られるので、何もしなくても情報が入る体制作りが必要と思う。
・地震や津波の際に避難する所が意外に少ない。高層住宅などへの一時避難場所として、垂直避難の取り組みなどの整備を行っていきたい。
・垂直避難が言われるようになってから避難するに際し、避難所か垂直避難かのタイミングや判断が難しいと感じる。
・1,000 名を超える防災訓練を実施したが、人数が多すぎたため内容が薄く感じた。
・ため池の防災対策は非常に重要な課題と認識している。今後も情報の提供を。
・農協では、荒れた農地を減らす取り組みとして田んぼダムの利用を考えている。
・人工林を間伐することが防災対策に貢献出来ると思うが、予算面で厳しい。
・減災対策の取り組み事例紹介で、他市の状況がよく解った。

【参考１】阪神西部（武庫川流域圏）地域総合治水推進計画に位置づけた主な取り組み

１）河川下水道対策（治水対策）

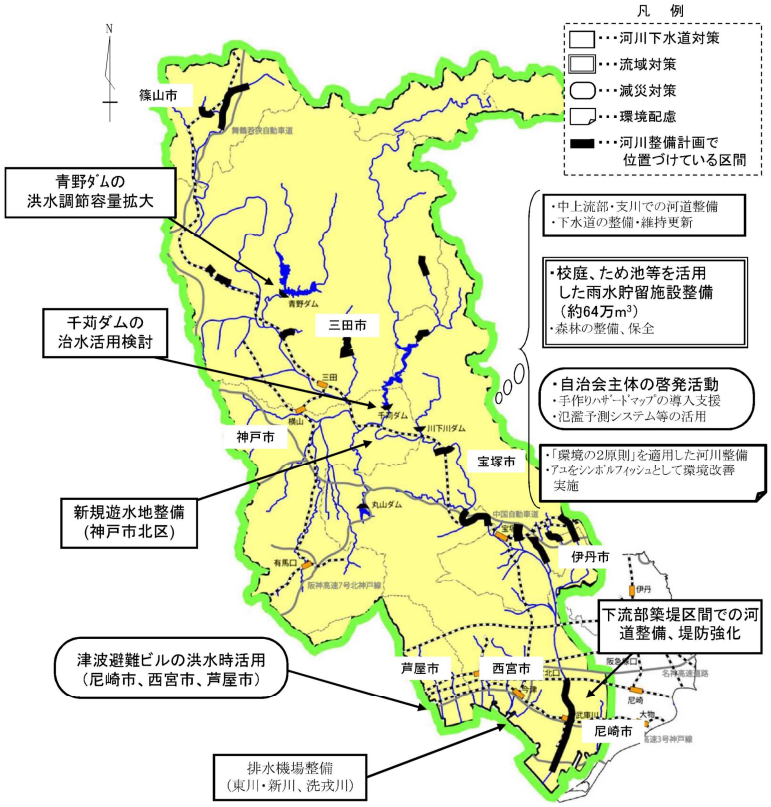
戦後最大（S36 年）規模の洪水を対象に、下流部築堤区間の河道整備をはじめ、堤防強化、武庫川遊水地整備、青野ダムの洪水調節容量拡大等を実施

２）流域対策

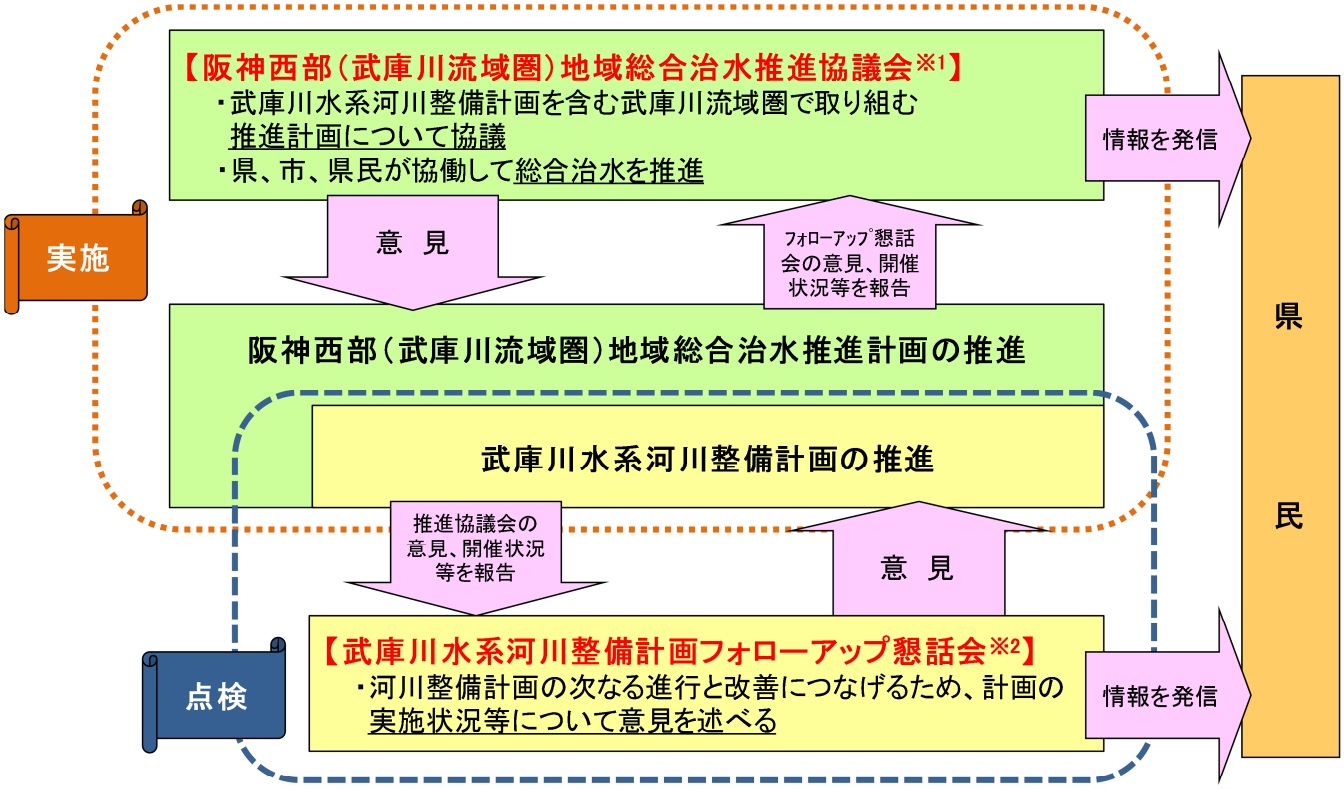
校庭・ため池等で約 64 万m^3の雨水貯留（効果量：甲武橋 30m^3/s）に取り組むとともに、利水ダムの治水活用を検討

３）減災対策

自治会主体の啓発活動や津波避難ビルの洪水時活用等を新たに推進



【参考２】「阪神西部（武庫川流域圏）地域総合治水推進協議会」と「武庫川水系河川整備計画ﾌｫﾛｰｱｯﾌﾟ懇話会」との関係



Point　計画の実施状況等は、協議会・懇話会で共有する

※1　総合治水条例に基づき設置（平成24年10月）
※2　河川整備計画に基づき設置（平成23年9月）